

目指す学校像	力がつく学校 力のある学校 感動いっぱい 与野南中 ～生徒・教職員・保護者・地域～
--------	---

重点目標	1 基盤となる生活面の安定と学力の向上 2 安心・安全の保障と学校事故の防止 3 コミュニティスクールの活性化とスクールコミュニティの構築 4 教職員の資質の向上
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状 落ち着いた生徒が多く、問題行動はほとんどない。長欠傾向の生徒が 名。 自分と関わりが薄いと感じる問題には触れられない。面倒なことに巻き込まれるのを避けようとする傾向が見られる。 昨年度の全国学力・学習状況調査では知識面では強みがある。国語は説明を求められる問題で空欄が多い。数学は統計的な解析を問われる問題に空欄が多い。正解主義の傾向が強い。 ● 課題 既習の知識・理解を活用して思考を進めさせられるようにすること。 思考を外化することに躊躇させないこと。 「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」の研究を進捗させること。 	生徒指導の充実	① 安全・安心の下で発言できる雰囲気醸成するため、学級で話し合い活動を実施する。当事者意識をもった思考、活動を経験させるため、ルールメイキングに関わる話し合いを行う。 ② 時間軸を意識した生徒指導を行うために、学級担任は学級経営案を作成し、定期的に検証を行う。 ③ 生徒指導の充実のため、生徒指導委員会と教育相談委員会は組織的・計画的に活動する。	① 月1回以上話し合い活動を行えたか。また、年3本のルールメイキングに関わる議題を設定したか。 ② 年間指導計画を作成し、毎学期末の検証を行ったか。 ③ 生徒指導委員会と教育相談部会は中心・指導的な立場で活動ができたか。 ◎ 総合的に～学校評価において、生活面についての問いに対して生徒 90%、保護者 85%の肯定的回答。生徒指導について教職員から 80%の肯定的回答)				
		学習指導の充実	① 知識・理解の定着・向上と学習の習慣化のため、やり直しテストを行う。 ② 思考項目強化のために、教科担任は定期テスト等での思考に関する出題パーセンテージと達成度を記録する。 ③ 研究を進めるため、学校課題研修部会を中心として定期的に教科部会を実施する。	① 毎回やり直しテストを行い、本テストとの結果の比較をしたか。 ② 毎回思考に関する出題パーセンテージと達成度を記録、比較したか。 ③ 学校課題研修部会は中心・指導的な立場で活動ができたか。 ◎ 総合的に～学校評価において、学習面についての問いに対して生徒 90%、保護者 85%の肯定的回答。教職員から 80%の肯定的回答)				
2	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状 毎月の安全点検により施設・設備の安全点検を遺漏なく行い、迅速な修理にあっている。体罰等の不適切な指導の発生はなかった。しかし指導にあたっての教職員の言動について保護者からの指摘が5件あった。 金銭事故の発生はなかったが、PTA等による寄付申請の対応が不十分であった。 SNSに関わる生徒指導が2件発生した。 ● 課題 教職員の安全に対する意識は高いが、一部に詰め甘さが見られる。 特にSNSについて、多くの者が安全意識を高く持っているが、一部で甘さが見られる。 	教職員の安全に対する意識の向上と実践	① 会計事故防止のため、学年と部活動会計で、校長自作の処理プログラムを使用し、監査も定例化する。 ② 安全点検を定期的の実施し、併せて管理訪問型の点検を定例化する。 ③ ハラスメント防止と不適切指導未然防止のための研修会を実施する。	① 会計事故の未然防止を具体的に言い、遺漏なく監査報告に至ったか。 ② 月に1回の安全点検と学期に1回の管理訪問型の点検を行えたか。問題箇所への即応をしたか。 ③ 職員会議等の機会にハラスメント防止のための研修を実施したか。				
		生徒を取り巻く環境の安心・安全の確保	① 特にSNA等に関わる生徒指導の未然防止のために、警察主導の安全教室」に加え、弁護士招聘によるSNS安全教室を実施する。 ② いじめ等の未然防止のために、必要に応じた全校集会や学校だよりによる情報発信や即時対応を行う。	① 警察主導の安全教室と弁護士を招聘してのSNS安全教室を実施したか。問題発生時に直ちに対応したか。 ② いじめ防止月間に応じた記事を学校だよりで執筆できたか。突発的な事象にも集会による指導等が行えたか。個々の案件に即座に対応したか。				
3	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状 学校運営協議会立ち上げ後3年目を迎えた。生徒が地域で活躍する場面も設け、会議では学校に対する肯定的な声が多く聞かれる。学校からの情報発信にはホームページと学校だよりが役立ち、応援の声が多く寄せられた。 ● 課題 限られた回数で学校運営協議会の中での、理想の生徒像や地域についての十分な熟議。実際の学校を実際に目にする機会を多く設け、地域・学校間交流の活性化。 	開かれた学校づくりに関する取組	① 地域の方々からの学校理解を深め、関りを多くするために、新たな取組を創出する。 ② 学校教育の一貫性を担保するために中学校区小学校との連携を強化する。 ③ 学校だより等の学校からの情報発信を積極的に行う。	① 学校運営協議会の前に企画会議を行い、話し合いが深まるようにしたか。新企画＝地域対象の給食試食会 民生委員・主任児童委員連絡会、地域清掃活動、大学との交流を行えたか。 ② 児童の把握のための兼務教員派遣と中学校紹介ができたか。校区4校長会を定例化できたか。(年4回) ③ ホームページを定期的に更新したか。学校だよりで校長が考える理想の学校像を述べることができているか。 ◎ 総合的に～保護者・地域 85%、小学校3校から 80%の肯定的回答)				
4	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状 研究推進テーマを「ICTを効果的に活用した、個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」して市委嘱の研究に取り組み、今年度は第2年次にあたる。来年度に向けて進行を速める必要を感じる。 多くの教員の在校時間数は減少したが、多忙感は相変わらずである。職場環境については多くの教職員は肯定的に受け止めている。 ● 課題 「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」の研究中間まとめの作成。 「教科に加えたもう一本の強み」作り。 教職員の計画年休取得。 ICTの活用。 	教職員の資質の向上に関する取組	① 研究の中間まとめを行うために、個別最適化に向けた計画的な授業実践を行う。 市教委、校区小学校、他中学校等、外部機関等との連携による研究体制整備を行う。 ② 若手教員の「教科に加えもう一本の強み」を作るために、研修会を組織しベテラン教員が指導にあたる。 ③ 疲労回復と視野を広げるための機会とするために、計画年休の取得を促進する。 ④ デジタルに関するスキルアップのために、エバンジェリストを中心とした活動を様々な場面に設ける。	① 教科部会を月1回開いたか。最低1回の公開授業を実施したか。カリキュラムチャートの作成は行えたか。外部機関等との連携による研究体制整備を行ったか。 ② 各自が生徒指導・教育相談・特別活動の3つの部会に分かれ月1回のペースで研修を行ったか。ベテラン教員が指導を行えたか。特に若手教員の意識の向上について80%の肯定的回答が得られたか。 ③ 学年内で話し合い、計画的な年休取得とその間の体験の共有を行えたか。はたらき方改革の取り組みについて、地域・保護者に情報を発信したか。積極的なコミュニケーションによる危機等の早期発見と対応をしたか。 ④ ICT活用アンケートで85%以上の肯定的回答が得られたか。				